

## 校異源氏物語・うき舟

宮なをかのほのかなりしゆふへをおほしわするゝよなしことくしきほどにはあるましけなりしを人からのまめやかにおかしうもありしかないとあたる御こゝろはくちをしくてやみにしことゝねたうおほさるゝまゝに女きみをもかうはかなきことゆへあなかちにかゝるすちのものにくみしたまひけりおもはすにこゝろうしとはつかしめうらみきこえ給おりくはいとくるしくてありのまゝにやきこえてましとおほせとやむことなきさまにはもてなしたまはさなれとあさはかならぬかたにこゝろとゝめて人のかくしおき給へるひとをものいひさかなくきこえてたらんにもさてきゝすくし給へき御心さまにもあらさめりさふらふ人のなかにもはかなうものをものたまひふれむとおほしたちぬるかきりはあるましきさとまてたつねさせ給御さまよからぬほんしやうなるにさはかり月日をへておほしゝむめるあたりはましてかならずみくるしきことゝりいてたまひてんほかよりつたへきゝ給はんはいかゝはせんいつかたさまにもいとをしここそはありともふせくへき人の御心ありさまならねはよその人よりはきゝにくゝなどはかりそおほゆへきとてもかくてもわかをこたりにてはもてそこなはしとおもひかへし給つゝいとをしなからえきこえいてたまはすことさまにつきくしくはいひなし給はねはをしこめてものゑんしたるよのつねのひとになりてそおはしけるかの人とはとしへなくのとかにおほしをきてゝまちとをなりとおもふらんと心くるしうのみおもひやりたまひなからところせき身のほとをさるへきついてなくてかやすくかよひたまふへきみちならねは神のいさむるよりもわりなしされといまいとよくもてなさんとすやまさとのなくさめおもひをきてしこゝろあるをすこし曰かすもへぬへきことゝもつくりいてゝのとやかにゆきてもみむさてしはしはひとのしるましきすみところしてやうくさるかたにかのこゝろをものとめをきわかためにも人のもときあるましくなめにてこそよからめにはかにに人そいつよりなときゝとかめられむもゝのさわかくはしめのこゝろにたかふへし又みやの御かたのきゝおほさんこともゝのどころをきはくしくゐてはなれむかしをわすれかほならんいとほいなしなおほししつむるもれいのゝとけさすきたる心からなるへしわたすへきところおほ

しまうけてしのひてそつくらせ給けるすこしいとまなきやうにもなりたれとみやの御方にはなをたゆみなくこゝろよせつかうまつりたまふことをなしやうなりみたてまつる人もあやしきまで思へれとよの中をやう／＼おほしゝり人のありさまをみたまふまゝにこれこそはまことにむかしをわすれぬこゝろなかさのなこりさへあさからぬためしなめれとあはれもすくなからすねひまさり給まゝに人からおほえもさまことものし給へはみやの御こゝろのあまりたのもしけなきとき／＼はおもはずなりけるすくせかなこひめきみのおほしをきてしまゝにもあらてかくものおもはしかるへきかたにしもかゝりそめけんよとおほすおり／＼おほくなんされとたいめんしたまふことはかたしとし月もあまりむかしをへたてゆきうち／＼の御心をふかうしらぬ人はなを／＼しきたゝ人こそさはかりのゆかりたつねたるむつひをもわすれぬにつき／＼しけれ中／＼かうかきりあるほとにれいにたかひたるありさまもつゝましかればみやのたえすおほしうたかひたるにいいよくるしうおほしはゝかり給てをのつからうときさまになりゆくをさりとでもたえすおなし心のかはりたまはぬなりけりみやもあたる御ほん上こそみまうきふしもまれわかきみのいとうつくしうおよすけたまふまゝにほかにはかゝる人もいてくましきにやとやむことなきものにおほしてうちとけなつかしきかたには人にまさりてもてなしたまへはありしよりはすこしものおもひしつまりてすくしたまふむ月のついたちすきたるころわたり給てわか君の御としまさりたまへるをもてあそひうつくしみたまふひるつかたちひさきわらはみとりのうすやうなるつゝみふみのおほきやかなるにちゐさきひけこをこまつにつけたるまたすく／＼しきたてふみとりそへてあふなくはしりまいる女君にたてまつればみやそれはいつくよりそとのたまふうちより大夫のおとゝにとてもてわつらひ侍つるをれいの御前にてそこらむせんとしてとり侍ぬるといふもいとあはたゝしきけしきにてこのこはかねをつくりていろとりたるこなりけりまつもいとよくにてつくりたるえたそとよとゑみていひつゝくれはみやもわらひ給ていてわれももてはやしてんとめすを女君いとかたはらいたくおほしてふみは大夫かりやれとのたまふ御かほのあかみたれはみや大将のさりけなくしなしたるふみにや宇治のなのりもつき／＼しとおほしよりてこのふみをとりとたまひつさすかにそれならんときにとおほすにいとまはゆければあけてみんよゑむしやしたまはんとするとの給へはみくるしうなにかはその女とちかきかよはしたらんうちとけふみを御覧せんとのたまふかさはかぬけしきなればされはみんよ女のふみかきはいかゝあるとてあけたまへれはいとわかやかなる

てにておほつかなくてとしもくれ侍にける山さとのいふせきこそみねのかすみ  
もたえまなくてとてはしにこれはわか宮のこせんにあやしう侍めれと、かきた  
りことにらうくしきふしもみえねとおほえなきを御めたて、このたてふみを  
みたまへはけに女のてにてとしあらたまりてなにかさふらふ御わたくしに  
もいかにたのもしき御よろこひおほく侍らんこゝにはいとめてたき御すまひの  
こゝろふかさをなふさはしからすみたてまつるかくてのみつくくとなかめ  
させ給よりはときくはわたりまいらせたまひて御こゝろもなくさめさせ給へ  
とおもひ侍につゝましくおそろしきものにおほしとりてなんものうきことにな  
けかせたまふめるわか宮のをまへにとてうつちまいらせ給おほきおまへのこら  
んせさらんほとにこらむせさせ給へとてなんとこまくこといみもえしあえ  
すものなけかしけるさまのかたくなしけるもうちかへしくあやしとこら  
んしていまはの給へかしたかそとのたまへはむかしかのやまさとにありける人  
のむすめさるやうありてこのころかしこにあるとんきゝ侍しときこえたまへ  
はをしなへてつかうまつるとはみえぬふみかきを心え給にかのわつらはしきこ  
とあるにおほしあはせつうつちおかしうつれくなりける人のしわざとみえた  
りまたふりにやまたちはなつくりてつらぬきそへたるえたに

またふりぬものにはあれと君かためふかき心にまつとしらなんことなる

ことなきをかのおもひわたる人にやとおほしよりぬるに御めとまりて返事した  
まへなさけなしかくい給へきふみにもあらさめるをなと御けしきのあしきまか  
りなんよとてたち給ぬ女きみ少将などしていとをしくもありつるかなおさなき  
人のとりつらんを人はいかてみさりけるそなとしのひてのたまふみたまへまし  
かはいかてかはまいらせましすへてこのこは心地なうさしすくして侍りをひさ  
きみえて人はおほとかなるこそおかしけれなにくめはあなかまおさなき人な  
はらたてそとのたまふこそそのふゆひとのまいらせたるわらはのかほはいとうつ  
くしかりければみやもいとらうたくしたまふなりけりわか御かたにおはしまし  
てあやしうもあるかなうちに大将のかよひたまふことはとしころたえすときく  
なかにもしのひてよるとまりたまふときもありと人のいひしをいとあまりなる  
人のかたみとてさるましきところにたひねし給らんことゝおもひつるはかやう  
の人かくしをき給へるなるへしとおほしうることもありて御ふみのことにつけ  
てつかひたまふ大内記なる人のかのとのにしたしきたよりあるをおほしいて、  
御前にめすまいれりぬふたきすへきに集ともえりいてゝこなたなるつしにつ  
むへきことなどのたまはせて右大将のうちへいまする事なをたへはてすやてら

をこそいとかしこくつくりたなれいかてかみるへきとのたまへはてらいとかしこくいかめしくつくられてふたんの三昧たうなといたうとくをきてられたりとなんきゝたまふるかよひ給ことはこそ秋ころよりはありしよりもしはゝものし給なりしもの人ゝのしのひてまうしゝは女をなんかくしすへさせたまへるけしうはあらすおほす人なるへしあのわたりにらうしたまふところゝの人みなおほせにてまいりつかうまつるとのゐにさしあてなとしつゝ京よりもいとしのひてさるへきことなどゝはせ給いかなるさいはひ人のさすかにこゝろほそくてゐたまへるならんとなんたゝこのしはすのころをひ申すときゝたまひしときこゆいとうれしくもきゝつるかなとおもほしてたしかにその人とはいはずやかしこにもとよりあるあまそとふらひたまふときゝしあまはらうになんすみ侍なるこの人はいまたてられたるになんきたなけなき女房などもあまたしてくちをしからぬけはひにてゐて侍ときこゆおかしきことかなゝにこゝろありていかなる人をはさてすゑたまへらんをいとけしきありてなへての人にゝぬ人のみこゝろなりや右のおとゝなどのこの人のあまり道心にすゝみてやまてらに夜さへともすれはとまり給なるかるゝしともとき給ときゝしをけになとかさしも仏のみちにはしのひありくらんなをかふるさとにこゝろをとゝめたるとなんきゝしかゝることこそはありけれいつら人よりはまめなるとさかしかるひとしもことに人のおもひいたるまじきくまあるかまへよとの給ていとをかしとおほいたりこの人のかのどのにいとむつまじくつかうまつる家司のむこになん有ければかくし給こともきくなるへし御こゝろのうちにはいかにしてこの人を見し人かともみさためんかのきみのさはかりにてすへたるはなへてのよろし人にはあらしこのわたりにはいかてうとからぬにかはあらん心をかはしてかくしたまへりけるもいとねたうおほゆたゝそのことをこのころはおほしゝみたりりゆみ内宴なとすくして心のとかなるにつかさめしなといひて人のこゝろつくるめるかたはなにともおほさねは宇治へしのひておはしさんことをのみおほしめくらすこの内記はのそむことありてよるひるいかて御こゝろにいらんとおもふころ例よりはなつかしうめしつかひていとかたきことなりともわかいはんことはたばかりてんやなどのたまふかしこまりてさふらふいといとひんなきことなれとかのうちにすむらん人はゝやうほのかにみしひとのゆくゑもしらすなりにしか大将にたつねとられにけりときゝあはすることこそあれたしかにはしるへきやうもなきをたゝものよりのそきなとしてそれかあらぬかとみさためんとなんおもふいさゝか人にしらるまじきかまへはいかゝすへきとのたまへはあ

なわつらはしとおもへとおはしまさんことはいとあらし山こえになん侍れとこ  
とにほとゝをくはさふらはすなんゆふつかたいてさせおはしましてゐねのとき  
にはおはしつきなんさてあか月にこそはかへらせたまはめ人しり侍らんことは  
たゝ御ともにさふらひ侍らんこそはそれもふかき心はいかてかしり侍らんと申  
すさかしむかしもひとたひふたゝひかよひしみち也かるゝしきもときおひぬ  
へきかものゝきこえのつゝましきなりとてかへすゝあるましきことにわか御  
こゝろにもおほせとかうまでうちいてたまへれはえおもひとゝめたまはす御と  
もにむかしもかしこのあんないしれりしもの二三人この内記さては御めのとこ  
のくら人よりかうふりえたるわかき人むつかしきかきりえり給て大将けふあす  
よにおはせしなむと内記によくあんないきゝ給ていてたちたまふにつけてもい  
にしへをおほしいつあやしきまでこゝろをあはせつゝいてありきし人のために  
うしろめたきわさにもあるかなとおほしいつることもさまゝなるに京のうち  
たにむけに人しらぬ御ありきはいへともえし給はぬ御みにしもあやしきさま  
のやつれすかたして御馬にておはする心地もゝのおそろしうやゝましけれども  
ものゝゆかしきかたはすゝみたる御心なれはやまふかくなるまゝにいつしかい  
かならんみあはする事もなくてかへらんこそさうゝしくあやしかるへけれど  
おほすに心もさはき給ほうしやうしのほとまては御くるまにてそれよりそ御む  
まにはたてまつりけるいそきてよひすくるほどにおはしましぬ内記あんないよ  
くしれるかのとのゝ人にとひきゝたりければとのゐ人あるかたにはよらてあし  
かきしこめたるにしをもてをやをらすこしこほちていりぬわれもさすかにまた  
みぬ御すまひなれはたとゝしけれと人しけうなしあらねはしむ殿のみなみ  
にそひほのくらみえてそよゝとするおとするまいりてまた人はおきて侍へし  
たゝこれよりおはしまさむとしるへしていれたてまつるやをらのほりてかうし  
のひまあるをみつめてよりたまふにいすはさらゝとなるもつゝましあたら  
しうきよけにつくりたれとさすかにあらゝしくてひまありけるをたれかはき  
てみんとうちとけてあなもふたかすき丁のかたひらうちかけてをしやりたりひ  
あかうともしてもぬふ人三四人あたりわらはのおかしけなるとをそよるこ  
れかゝをまつかのほかけにみたまひしそれなりうちつけめかとなをうたかはし  
きにうこんとなのりしわかき人もありきみはかいなをまくらにてひをなかめた  
るまみかみのこほれかゝりたるひたひつきいとあてやかになまめきてたいの御  
かたにいとようおほえたりこの右近ものをとてかくてわたらせ給なはとみに  
しもえかへりわたらせたまはしをとのはこのつかさめしのほとすきてついたち

ころにはかならずおはししなんと昨日の御つかひも申けり御ふみにはいか、きこえさせ給けんといへといらへもせすいとものおもひたるけしきなりおりしもはひかくれさせ給たらんやうならむかみくるしきといへはむかひたる人それはかくなんわたりぬると御せうそきこえさせたまへらんこそよからめかるく／＼ういかてかはをとなくてははひかくれさせ給はん御ものまうての、ちはやかてわたりをはししねかしかくてこ、ろほそきやうなれと心にまかせてやすらかなる御すまひにならひて中／＼たひこ、ちすへしやなといふまたあるはなをしはしかくてまぢきこえさせ給はんこそのとやかにさまよかるへきや京へなとむかへたてまつらせたらんのちおたしくておやにもみえたてまつらせ給へかしこのをと、のいときうにものしたまひてにはかにかくきこえなしたまふなめりかしむかしもいまものねむし、てのとかなる人こそさいはひはみはて給なれなどといふなり右近なとてこのま、をと、めたてまつらすなりにけんおひぬる人こそ人はむつかしきこ、ろのあるにこそとにくむはめのとやうの人をそしるなめりけに、くきものありかしとおほしいつもゆめの心ちそするかたわらいたきまてうちとけたること、もをいひてみやのうへこそいとめてたき御さいわひなれ右の大殿のさはかりめてたき御いきをひにていかめしうの、しりたまふなれとわかきみむまれたまひてのちはこよくそおはしますなるか、るさかしら人とものおはせて御心のとかにかしこうもてなしておはしますにこそあんめれといふとのたにまめやかにおもひきこえ給ことかはらすはをとりきこえ給へきことかはといふをきみすこしをきあかりていとき、にくきことよその人にこそおとらしともいかにとおもはめかの御ことなかけてもいひそもりきこゆるやうもあらはかたはらいたからんなどいふなにはかりのしそくにかあらんいとよくもにかよひたるけはひかなとおもひくらふるにこ、ろはつかしけにあるところをはかれはいとこよなしこれはた、らうたけにこまかなるところそいとをかしきよろしうなりあはぬところをみつけたらんにてたにさはかりゆかしとおほし、めたる人をそれとみてさてやみ給へき御こ、ろならねはましてくまなくみたまふにいかてかこれをわかものになすへきとこ、ろもそらになりたまひてなをまほり給へは右近いとねふたしよへもす、ろにおきあかしてきつとめての程にもこれはぬひてんいそかせ給とも御くるまはひたけてあらんといひてししたるものともとりくしてき丁にうちかけなとしてうた、ねのさまによりふしぬきもすこしおくにいりてふす右こんはきたおもてにいきてふすしはしありてそきたるきみのあとちかくふしぬねたしとおもひければいと、うねい

りぬるけしきをみたまひてまたせんやうもなければしのひやかにこのかうしを  
たゝき給右こんきゝつけてたそとゝふこはつくり給へはあてなるしはふきとき  
ゝしりてとのゝおはしたるにやとおもひておきていたりまつこれあけよとの  
たまへはあやしうおほえなきほにも侍かなよはいたくふけ侍ぬらんものをと  
いふものへわたりたまふへかむなりとなかのふかいひつれはおとろかれつるま  
ゝにいてたちていとこそわりなかりつれまつあけよとのたまふこゑいとうま  
ねひにせ給てしのひたれはおもひもよらすかいはなちつみちにいてわりなく  
おそろしきことのありつれはあやしきすかたになりてなんひくらうなせとのた  
まへはあないみしとあはてまとひてひはとりやりつわれ人にみすなよきたりと  
て人をとろかすなといとらうゝしき御こゝろにてもとよりもほのかにゝたる  
御こゑをたゝかの御けはひにまねひていりたまふゆゝしきことのさまとのたま  
ひつるいかなる御すかたならんといとをしくてわれもかくろへてみたてまつる  
いとほそやかになよゝとしやうそきてかのかうはしきこともおとらすちかく  
よりて御そともぬきなれかほにうちふしたまへれば例のおましにこそなといへ  
とものものたまはす御ふすまゝいりてねつる人ゝおこしてすこしゝそきてみ  
なねぬ御ともの人なとれいのこゝにはしらぬならひにてあはれなるよのおはし  
ましさまかなかゝる御ありさまを御らんしゝらぬよなとさかしらかる人もあれ  
とあなかもたまへよこへはさゝめくしもそかしきなといひつゝねぬ女君  
はあらぬ人なりけりとおもふにあさましういみしけれとこゑをたにせさせたま  
はすいとゝつゝまじかりしところにてたにわりなかりし御こゝろなればひたふ  
るにあさましはしめよりあらぬ人としりたらいさゝかいふかひもあるへきを  
ゆめのこゝちするにやうゝそのおりのつらかりしところおもひわたるさま  
のたまふにこのみやとしりぬいよゝはつかしうかのうへのおほさんことなど  
おもふに又たけきことなければかきりなうなくみやもなかゝにてたはやすく  
あひみさらんことをゝほすになきたまふ夜はたゝあけにあく御ともの人きてこ  
はつくる右近きゝてまいりいて給へきこゝちもなくあかすあはれなるに又お  
はしきさんこともかたければ京にはもとめさはかるともけふはかりはかくてあ  
らんなにこともいけるかきりのためにこそあれたゝいまいてをはしまさんをま  
ことにしぬへくおほさるれはこの右近をめしよせていと心ちなしとおもはれぬ  
へけれと今日はえいつましうなんあるをのこととはこのわたりちかゝらんとこ  
ろによくかくろへてさふらへときかたは京へものしてやまてらにしのひてなど  
つきゝしからんさまにいらへなとせよとの給にいとあさましくあきれてこゝ

ろもなかりけるよのあやまちを、もふにこ、ちもまとひぬへきをおもひしつめていまはよろつにおほ、れさはくともかひあらし物からなめけなりあやしかりしおりにいとふかくおほしいれたりしもかうのかれさりける御すくせにこそありけれ人のしたるわさかはと思なくさめてけふ御むかへにと侍しをいかにせさせ給はんとする御ことにかかうのかれきこえさせ給ましかりける御すくせはいときこえさせ侍らんかたなしおりこそいとわりなう侍れなを今日はいておはしまして御心さし侍はのとかにもときこゆおすけてもいふかなとおほしてわかこ、ろは月ころものおもひつるにほれはてにければ人のもとかんもいはんもしられすひたふるにおもひなりたりすこしもみことをおもひは、からん人のかゝるありきはおもひたちなんや御むかへにはけふはものいみなといへかし人にしらるましきことをたかためにもおもへかしこと事はかひなしとのたまひてこの人のよにしらすあはれにおほさる、ま、によろつのそしりもわすれ給ぬへし右近いて、このをとなう人にかくなんのたまはするをなをいとかたわならんと申させ給へあさましうめつらかなる御ありさまをさおほしめすともかゝる御とも人との御こ、ろにこそあらめいかてかく心をさなうはいてたてまつり給こそなめけなることをきこえさするやまかつなとも侍ましかはいかならましといふ内記はけにいとわつらはしくもあるかなとおもひたてりときかたとおほせらる、はたれにかさなんとつたふわらひてかうかへ給こと、ものおそろしければさらすともにけてまかてぬへしまめやかにはをろかならぬ御けしきをみたてまつればたれもくみをすて、なんよしくとのゑ人もみなおきぬなりとていそきいてぬ右近人にしらすましうはいか、はたはかるへきとわりなうおほゆ人くおきぬるにどのはさるやうありていみしうしのひさせ給けしきみたてまつればみちにていみしきことの有けるなめり御そともなとよさりしのひてもてまいるへくなんおほせられつるなといふこたちあなむくつけやこはたやまはいとをそろしかんなる山そかし例の御さきもをはせ給はすやつれておはしましけんにあないみしやといへはあなかまくけすなとちりはかりもき、たらんにいといみしからむといひゑたる心ちもおそろしあやにくにとの、御つかひのあらんときいかにせんとはつせの観音今日ことなくてくらし給へとたいくわんをそたてけるいしやまにけふまうてさせんとては、きみのむかふるなりけりこの人もみなしやうしむきよまはりてあるにさらはけふはえわたらせ給ましきなめりいとくちをしきこと、いふひたかくなれはかうしなとあけて右近そちかくつかうまつりけるもやのすたれはみなおろしまはしてもいみなとか、せてつけたり



は、きみもや身つからおはすとてゆめみさはかしかりつといひなすなりけり御  
てうつなとまいりたるさまは例のやうなれとまかなひめさましくおほされてそ  
こにあらはせたまは、とのたまふ女いとさまよう心にくき人をみならひたるに  
ときのまもみさらんにしぬへしとおほしこかる、人を心さしふかしとはかゝる  
をいふにやあらんとおもひしらるゝにもあやしかりけるみかなたれものゝき  
こえあらはいかにおさんとまつかのうへの御こゝろをおもひいてきこゆたれ  
としらぬをかへすゝいと心うしあらんまゝにのたまへいみしきけすといふと  
もいよくなんあはれなるへきとわりなうとひたまへとその御いらへはたえて  
せずこと事はいとをかしうけちかきさまにいらへきこえなとしてなひきたるを  
いとかきりなくらうたしとのみゝたまふひたかくなるほとにむかへの人きたり  
くるまふたつむなる人ゝのれいのあらゝかなる七八人をのこともおほくら  
も例のしなくゝしからぬけはひさへつりつゝいりきたれは人ゝかたはらいた  
かりつゝあなたにかくれよといはせなとす右近いかにせんとのなんをはします  
といひたらんにけにさはかりの人をはしおはせずをのつからきゝかよひてかく  
れなきこともこそあれとおもひてこの人ゝにもことにいひあはせず返事かく  
よへよりけかれさせたまひていとくちをしきことをおほしなくめりしにこよ  
ひゆめみさはかしくみえさせ給へればけふはかりつゝしませたまへとてなんも  
のいみにて侍る返さくちおしうものゝさまたけのやうにみたてまつり侍とかき  
て人ゝにもものなとくはせてやりつあま君にもけふはものいみにてわたり給は  
ぬといはせたり例はくらししかたくのみかすめるやまきはをなめわひ給にくれ  
ゆくはわひしうのみおほしいらるゝ人にひかれたてまつりていとはかなくゝれ  
ぬまきるゝことなくのとけきはるのひにみれともゝあかすその事とおほゆる  
くまなくあいきやうつきなつかしうをかしけなりさるはかのたいの御かたには  
をとりたり大とのゝきみのさかりにゝほい給へるあたりにてはこよなかるへき  
ほとの人をたくひなくおほさるゝほとなれはまたしらすをかしとのみゝたまふ  
女はまた大将とのをいときよけに又かゝる人あらんやとみしかとこまやかにに  
ほひきよらなることはこよなくおほしけりとみるすゝりひきよせてゝならひな  
とし給いとをかしけにかきすさみゑなとをみところおほくかきたまへればわか  
き心ちにはおもひもうつりぬへし心よりほかにみさらんほとはこれをみたまへ  
よとていとをかしけなるおとこをむなもろともにそひふしたるかたをかきたま  
ひてつねにかくてあらはやなどの給もなみたをちぬ  
なかきよをたのめてもなをかなしきはたゝあすしらぬいのちなりけりいと

かうおもふこそゆゝしけれ心に身をもさらにえまかせすよろつにたはからんほとまことにしぬへくなんおほゆるつらかりし御さまをなか／＼なにゝたつねいてけんなどのたまふ女ぬらしたまへるふてをとりて

こゝろをはなけかさらしいのちのみさためなきよとおもはましかはとあるをかはんをはうらめしうおもふへかりけりとみたまふにもいとらうたしいかなる人の心かはりをみならひてなとほゝゑみて大将のこゝにわたしはしめ給けんほどをかへす／＼ゆかしかり給てとひたまふをくるしかりてえいはぬことをかうのたまふこそとうちえむしたるさまもわかひたりをのつからそれはきゝいてゝんとおほすものからいはずまほしきそわりなきやよさり京へつかはしつるたいふまいりて右近にあひたりきさいのみやよりも御つかひまいて右大殿もむつかりきこえさせ給て人にしられさせ給はぬ御ありきはいとかろかろしうなめけなる事もあるをすへてうちなどにきこしめさんことも身のためなんいとからきといみしく申させたまひけりひんかしやまにひしりこらんしにとなん人にはものし侍つるなとかたりて女こそつみふかうおはするものはあれすゝろなるけそうの人をさへまとはし給てそらことをさへせさせ給よといへはひしりの名をさへつけきこえさせ給てければいとよしわたくしのつみもそれにてほろほし給はんまことにいとあやしき御こゝろのけにいかてかならはせ給けんかねてかうおはしますへしとうけたまはらしにもいとかたしけなければたばかりきこえさせてましものをあふなき御ありきにこそはとあつかひきこゆまいりてさなとまねひきこゆればけにいかならんとおほしやるにところせきみこそわひしけれかるらかなるほどの殿上人などにてしはしあらははいかゝすへきかうつゝむへき人めもえはゝかりあふましくなん大将もいかに思はんとす覧さるへきほととはいひなからあやしきまでむかしよりむつまじきなかにかゝるこゝろのへたてのしられたらるときはつかしう又いかにそやよのたとひにいふこともあればまちとをなるわかをこたりもしらすうらみられ給はんをさへなんおもふゆめにも人にしられたまふましきさまにてこゝならぬところにてたてまつらんとそのたまふけふさへかくてこもりゐたまふへきならねはいてたまひなんとするにもそでのなかにそとゝめ給らんかしあけはてぬさきにと人／＼しはふきおとろかしきこゆつまどもろともにあておはしてえいてやり給はす

よにしらすまとふへきかなさきにたつなみたもみちをかきくらしつゝ女もかきりなくあはれとおもひけり

なみたをもほとなきそてにせきかねていかにわかれをとゝむへき身そ風の

をともしとあらましく霜ふかきあか月にをのかきぬくもひやゝかになりたる  
心ちしてひきかへすやうにあさましかれと御ともの人くいとたはふれにくし  
とおもひてたゝいそかしにいそかしいつれは我にもあらでいてたまひぬこの五  
位二人なん御馬のくちにそさふらひけるさかしきやまこへいてゝそおのくむ  
まにはのるみきわのこほりをふみならすむまのあしをとさへこゝろほそくな  
しむかしもこのみちにのみこそはかゝるやまふみはしたまひしかはあやしかり  
けるさとのちきりかなとおほす二条の院におはしまして女君のいと心うかりし  
御ものかくしもつらければこゝろやすきかたにおとのこもりぬるにねられたま  
はすいとさひしきにもおもひまされはこゝろよはくたいにわたり給ぬなにご  
ころなくいとさよけにておはすめつらしくをかしとみたまひしひとよりも又こ  
れはなをありかたきさはしたまへりかしとみたまふものからいとよくにたる  
をおもひいて給もむねふたかれはいたくものおほしたるさまにてみ丁にいりて  
おほとこのこもる女君もいていりきこえ給て心ちこそいとあしけれいかならんと  
するにかと心ほそくなんあるまろはいみしうあはれとみをいたてまつるとも御  
ありさまはいとゝうかはりなんかし人のほいはかならずかなうなれはとの給け  
しからぬことをもまめやかにさへのたまふかなとおもひてかうきゝにくきこと  
のもりてきこえたらはいかやうにきこえなしたるにかと人もおもひより給はん  
こそあさましかれ心うきみにはすゝろなることもいとくるしくとてそむきたま  
へりみやもまめたちたまひてまことにつらしとおもひきこゆることもあらんは  
いか、おほさるへきまろは御ためにをろかなる人かはひともありかたしなどゝ  
かむるまでこそあれひとにはこよなうおもひおとし給へかゝめりそれもさるへ  
きにこそはとことはらるゝをへたてたまふ御こゝろのふかきなんいとこゝろ  
きとのたまふにもすぐせのをろかならてたつねよりたるそかしとおほしいつ  
になみたくまれぬまめやかなるをいとしういかなることをきゝたまへるなら  
んとおとろかるゝにいらへきこえたまはんこともなしものはかなきさまにてみ  
そめたまひにしに事もかろらかにをしはかり給にこそあらめすゝろなる人  
をしるへにてそのこゝろよせをゝもひしりはしめなとしたるあやまちはかりに  
おほえおとる身にこそとおほしつゝくるもよろづかなしくていとゝらうたけな  
る御けはひなりかの人みつけたることはしはしきかしたてまつらしとおほせは  
ことさまにおもはせてうらみ給をたゝこの大将の御ことをまめまめしくのたま  
ふとおほすに人やそらことをたしかなるやうにきこえたらんなどおほすありや  
なしやをきかぬまはみえたてまつらんもはつかし内より大みやの御ふみあるに

おとろきたまひてなをこゝろとけぬ御けしきにてあなたにわたり給ぬ昨日のお  
ほつかなさをなやましくおほされたなるよろしうはまいり給へひさしうもなり  
にたるをときこへたまへればさはかれたてまつらんもくるしけれとまことに御  
心ちもたかひたるやうにてその日はまいりたまはす上達部などあまたまいりた  
まへれとみすのうちにてくらし給ゆふつかた右大将まいり給へりこなたにをと  
てうちとけなからたいめんしたまへりなやましけにおはしますと侍つればみや  
にもいとおほつかなくおほしめしてなんいかやうなる御なやみにかときこえた  
まふみるからに御こゝろさはきのいとゝまされはことすくなにてひしりたつと  
いひなからこよなかりけるやまふしこゝろかなさはかりあはれなる人をさてを  
きてこゝろのとかに月ひをまちわひさすらんよとおほすれいはさしもあらぬこ  
とのついでにたにわれはまめ人ともてなしなりの給をねたかり給てよろづにの  
給やふるをかゝることみあらはしたるをいかにの給はましされとさやうのたは  
れこともかけたまはすいとくるしけにみえ給へはふひなるわさかなをとろく  
しからぬ御心ちさすかに日かすふるはいとあしきわさに侍り御風よくつくるは  
せ給へなとまめやかにきこえをきていてたまひぬはつかしけなる人なりかし我  
ありさまをいかにおもひくらへけんなどさまくゝなることにつけつゝもたゝこ  
の人をときのまわすれすおほしいつかしこにはいしやまもとまりていとつれ  
くゝなり御文にはいといみしき事をかきあつめたまひてつかはすそれたにこゝ  
ろやすからすときかたとめしゝは大夫のすさのこゝろもしらぬしてなんやりけ  
る右近かふるくしれりける人のとのゝ御ともにてたつねいてたるさらかへりて  
ねんころかるとゝもたちにはいひきかせたりよろづ右近そゝらことをしならひ  
ける月もたちぬかうおほしいらるれとおはしますことはいとわりなしかうのみ  
ものををもはゝさらにえなからふましきみなめりと心ほそさをそえてなけき給  
大将殿すこしのとかになりぬるころ例のしのひておはしたりてらにほとけなど  
をかみたまふみす経せさせたまふ僧にもたまひなとしてゆふつかたこゝには  
しのひたれとこれはわりなくもやつし給はすえほうしなをしのすかたあらまほ  
しくきよけにてあゆみいりたまふよりはつかしけにようることなり女いかてみ  
えたてまつらんとすらんとそらさへはつかしくおそろしきにあなかななりし人  
の御ありさまうちおもひいてらるゝにまたこの人にみえたてまつらんをおもひ  
やるなんいみしう心うきわれはとしころみる人をもみなおもひかはりぬへき心  
ちなんするとのたまひしをけにそのゝち御こゝちくるしとていつくにもくゝ例  
の御ありさまならてみすほうなときはくなるをきくにも又いかにきゝておほさ

んとおもふもいとくるしこの人はたいとけはひことにこゝろふかくなまめかし  
きさましてひさしかりつる程のをこたりなどのたまふもことおほからすこひし  
かなしとをりたゝねとつねにあひみぬこひのくるしさをさまよき程にうちのた  
まへるいみしくいふにはまさりていとあはれと人のおもひぬへきさまをしめた  
まへるひとさまなりえんなるかたはさるものにてゆくすゑなく人のたのみぬ  
へきこゝろはへなとこよなくまさりたまへりおもはすなるさまのこゝろはへな  
ともりきかせたらんときもなのめならすいみしくこそあんへけれあやしううつ  
し心もなうおほしいらるゝ人をあはれとおもふもそれはいとあるましくかろき  
ことそかしこの人にうしとおもはれてわすれたまひなんこゝろほそさはいとふ  
かうしみにければおもひみたれたるけしきを用ころにこよなうものゝこゝろし  
りぬひまさりにけりつれゝなるすみかのほとにおもひのこすことはあらしか  
しとみたまふもこゝろくるしければつねよりも心とゝめてかたらひたまふつく  
らするところやうゝよろしうなしてけり一日なんみしかはこゝよりはけちか  
き水に花もみたまひつへし三条のみやもちかき程なりあけくれおほつかなきへ  
たてもおのつからあるましきをこの春のほとにさりぬへくはわたしでんとおも  
ひてのたまふもかの人のゝとかなるへきところおもひまうけたりと昨日ものた  
まへりしをかゝることもしらてさおほすらんよとあはれながらもそなたになひ  
くへきにはあらずかしとおもふからにありし御さまのおもかけにおほゆれはわ  
れなからもうたてこゝろうのみやとおもひつゝけてなきぬ御心はへのかゝらて  
おいらかなりしこそこのとかにうれしかりしか人のいかにきこえしゝせたること  
かあるすこしもおろかならんこゝろさしにてはかうまでまいりくへき身のほと  
みちのありさまにもあらぬをなとついたりころのゆふつくよにすこしはしちか  
うふしてななめいたし給へりおとこはすきにしかたのあはれをおもほしいて女  
はいまよりそひたる身のなけきくはへてかたみにもおもはしやまのかたはか  
すみへたてゝさむきすすきにたてるかさゝきのすかたもところからはいとをか  
しうみゆるにうちのはるゝとみわたさるゝにしはつみふねところゝに  
ゆきちかひたるなとほかにてめなれぬことゝものみとりあつめたるころなれ  
はみたまふたひことになをそのかみのことのたゝいまの心ちしていとかゝらぬ  
人を見かはしたらんたにめつらしきなかのあはれおほかりぬへきほとなりまい  
てこひしき人によそへられたるもこよなからすやうゝものゝこゝろしりみや  
こなれゆくありさまのおかしきにもこよなくみまさりしたるこゝちしたまふ女  
はかきあつめたる心のうちにもよをさるゝなみたともすれはいてたつをなくさ

めかね給つゝ

うちはしのなかききりはくちせしをあやふむかたにこゝろさはないま

みたまひてんとたまふ

たえまのみよにはあやうきうちはしをくちせぬものとなをたのめとやさき

さきよりもいとみすてかたくしはしもたちとまらまほしくおほさるれとひとものいひやすからぬにいまさらなりこゝろやさきさまにてこそなとおほしなしてあか月にかへりたまひぬいともおとなひたりつるかなと心くるしうおほしいつることありしにまさりけりきさらきの十日のほどに内にふみつくらせ給

とてこのみやも大将もまいりあひたまへりおりにあひたるものしらへともに

みや御こゑはいとめてたくてむめかへなとうたひたまふなに事も人よりはこ

よなうまさりたまへる御さまにてすゝろなることおほしいてらるゝのみなんつみふかゝりけるゆきにはかにふりみたれかせなとはけしければ御あそひとくやみぬこの宮の御とのゑどころに人ゝまいり給ものまいりなとしてうちやすみ

たまへり大将人にもゝたまはんとてすこしはしちかういてたまへるにゆきやうゝつもるかほしのひかりにおほゝしきをやみはあやなしとおほゆるにほ

ひありさまにてころもかたしきこよひもやとうちすむしたまへるもはかなきことをくすさみにのたまへるもあやしくあはれるけしきそへたる人さまにて

いとものふかけなりことしもこそあれみやはねたるやうにて御こゝろさはいくおろかにはおもはぬなめりかしかたしくそてをわれのみおもひやる心ちしつるを

おなしこゝろなるもあはれなりわひしくもあるかなはかりなるもとつ人をゝきてわかゝたにまさるおもひはいかてつくへきそとねたうおほさるつとめてゆ

きのいとたかうつもりたるにふみたてまつりたまはんとて御前にまいりたまへる御かたちこのころいみしくさかりにきよけなりかのきみもおなしほとにてい

まふたつみつまさるけちめにやすこしねひまされるけしきよいなとそこさからにつくりたらんあてなるおとこのほんにしつへくものしたまふみかとの御む

こにてあかぬことなしとそよ人もことはりけるさえなともおほやけゝしきかたもおくれすそおはすへきふみかうしはてゝみな人まかてたまふみやの御文を

すくれたりとすんしのゝしれとなにともきゝいれ給はすいかなる心にてかゝることをもしいつらんとそらにのみおほしほれたりかのひとの御けしきにもいと

ゝおとろかれ給ければあさましようたはかりておはしましたり京にはともまつばかりきえのこりたるゆきやまふかくいるまゝにやゝふりうつみたりつねよりも

わりなきまれのほそみちをわけたまふほと御ともの人もなきぬはかりおそろし

うわつらはしきことをさへおもふしるへの内記はしきふの少輔なんかけたりけるいつかたもくことくしかるへきつかさなからいとつきくしうひきあけなどしたるすかたもおかしかりけりかしこにはおはせんとありつれとかゝるゆきにはとうちとけたるに夜ふけて右近にせうそこしたりあさましうあはれときみもおもへり右近はいかになりはて給へき御ありさまにかとかつはくるしけれどもこよひはつゝましさもわすれぬへしいひかへさむかたもなければおなしやうにむつましくおほいたるわかき人のこゝろさまあふなからぬをかたらひていみしくわりなきことおなし心にもてかくし給へといひてけりもろともにいれたてまつるみちのほとにぬれたまへるかのところせうにほふもゝてわつらひぬへけれとかのひとの御けはひにゝせてなんもてまきはしける夜のほとにてたしかえりたまはんも中くなるへけれはこのひとめもいとつゝましさにときかたにたはからせ給てかはよりおちなる人のいゑにゐておはせんとかまへたりければさきたてゝつかはしたりけるよふくる程にまいれいとよくようゐしてさふらふと申さすこはいかにしたまふことにかと右近もいと心あはたゝしければねをひれておきたる心ちもわなゝかれてあやしわらへのゆきあそひしたるけはひのやうにそふるひあかりにけるいかでかなともいひあえさせ給はすかきいたきていてたまひぬ右近はこゝのうしろみにとゝまりてしゝうをそたてまつるとはかなけるものとあけくれみいたすちひさきふねにのり給てさしわたり給程はるかならんきしにしもこきはなれたらんやうに心ほそくおほえてつとつきていたかれたるもいとらうたしとおほすありあけの月すみのほりて水のおもてもくもりなきにこれななたちはなのこしまと申して御ふねしはしさとゝめたるをみ給へはおほきやかなるいはのさましてされたるときは木のかけしけれりかれみたまへいとはかなけれとちとせもふへきみとりのふかさをとのたまひて

としふともかはらんものかたちはなのこしまのさきにちきるこゝろは女もめつらしからん道のやうにおほえて

たちはなのこしまのいろはかはらしをこのうきふねそゆくゑしられぬをりから人のさまもをかしくのみなに事もおほしなすかのきしにさしつきており給に人にいたかせたらんはいと心くるしければいたき給てたすけられつゝいり給をいとみくるしくな人をかくもてさはき給らんとみたてまつるときかたかおちのいなはのかみなるからうするさうにはかなくつくりたるいゑなりけりまたいとあらくしきにあしる屏風など御らんしもしらぬしつらひにて風もことに

さはらすかきのもとにゆきむらきえつゝ、いまもかきくもりてふる日さしいて、  
のきのたるひのひかりあひたるにひとの御かたちもまさる心ちすみやもところ  
せきみちの程にかかるらかなるへきほどの御そともなり女もぬきすへさせ給てし  
かはほそやかなるすかたつきいとをかしけなりひきつくろふこともなくうちと  
けたるさまをいとはつかしくまはゆきまてきよなる人にさしむかひたるよと  
おもへとまきれんかたもなしなつかしきほとなるしろきかきりをいつゝはかり  
そてくちすそのほとまてなまめかしくいろ／＼にあまたかさねたらんよりもな  
つかしうきなしたりつねにみたまふ人とてもかくまてうちとけたるすかたなど  
はみならひたまはぬをかゝるさへそなをめつらかにおかしうおほされけるしゝ  
うもいとめやすきわかなりけりこれさへかゝるをのこりなうみるよと女きみ  
はいみしと思ふみやもこれはまたゝそわかなもらすなよとくちかため給ふをい  
とめてたしとおもひきこえたりこゝのやとりにてすみけるものときかたをし  
うとおもひてかしつきありけはこのおはしますやりとをへたてゝところえかほ  
にゐたりこゑひきしゝめかしこまりてものかたりしけるをいらへもえせすおか  
しとおもひけりいとおそろしうゝらなひたるものいみにより京のうちをさへさ  
りてつゝしむなりほかの人よすなどいひたり人めもたえて心やすくかたらひく  
らしたまふかの人のものし給へりけんにかくてみえけんかしとおほしやりてい  
みしくうらみ給二のみやをいとやむことなくもちたてまつりたまへるありさ  
まなともかたり給かのみゝとゝめたまひしひと事はのたまひいてぬそにくきや  
ときかた御てうつ御くた物などゝりつきてまいるを御らんしていみしくかしつ  
かるめるまらうとのぬしさてなみえそやといましめ給ふしゝういろめかしきわ  
かうとの心ちにいとおかしと思てこのたいふとそものかたりしてくらしけるゆ  
きのふりつもれるにかのわかすむかたをみやりたまへれはかすみのたえ／＼に  
こすゑはかりみゆやまはかゝみをかけたるやうにきら／＼とゆふひにかゝやき  
たるによへわけこし道のわりなさなどあはれおほくそへてかたり給  
みねのゆきみきはのこほりふみわけて君にそまとふみちはまとはすこはた  
のさとにむまはあれとなどあやしきすゝりめしいてゝてならひ給  
ふりみたれみきはにこほるゆきよりもなからにてそわれはけぬへきとか  
きけちたりこの中そらをとかめ給けにくゝもかきてけるかなとはつかしくてひ  
きやりつさらてたにみるかひある御ありさまをいよ／＼あはれにいみしと人の  
こゝろにしめられむとつくしたまふ事のはけしきいはんかたなし御ものいみふ  
つかとたはかり給へれはこゝろのとかなるまゝにかたみにあはれとのみふかく



おほしまさる右近はよろつにれのいひまきはして御そなたでまつりたり  
けふはみたれたるかみすこしけつらせてこきゝぬにこうはいのおり物などあは  
ひおかしうきかへてゐ給へりしゝうもあやしきしひらきたりしをあさやきたれ  
はそのもととり給てきみにきせ給て御てうつまいらせ給ひめみやにこれをたて  
まつりたらいみしきものにし給てんかしいとやむことなきゝはの人おほかれ  
とかはかりのさましたるはかたくやとみ給かたわなるまであそひたはふれつゝ  
くらしたまふしのひてゐてかくしてん事を返さの給その程かのひとにみえたら  
はといみしき事ともをちかはせ給へはいとわりなきことゝ思ひていらへもやら  
すなみたさへおつるけしきさらにめのまへにたにおもひうつらぬなめりとねた  
うむねいたうおほさるうらみてもなきてもよろつのたまひあかして夜ふかくゐ  
てかへりたまふれのいたきたまふいみしくおほすめる人はかうはよもあらし  
よみしりたまへりやとのたまへはけにとおもひてうなづきてゐたるいとうた  
けなり右近つまとはなちていれたてまつるやかてこれよりわかれていてたまふ  
もあかすいみしとおほさるかやうのかへさは猶二条にそおはしますいとなやま  
しうしたまひてものなとたえてきこしめさすひをへてあをみやせ給御けしきも  
かはるをうちにもいつくにもおもほしなけくにとゝものさはかしくて御ふみ  
たにこまかにはえかきたはゝすかしこにもかのさかしきめのとむすめのこうむ  
ところにてたりけるかへりきにければこゝろやすくもえみすかくあやしきす  
まひをたゝかのとのゝもてなしたまはんさまをゆかしくまつ事にてはゝきみも  
思ひなくさめたるにしのひたるさまなからもちかくわたしてんことをおほしな  
りにたれはいとめやすくうれしかるへき事におもひてやうゝ人もとめわらは  
のめやすきなどむかへておこせ給わかこゝろにもそれこそはあるへき事にはし  
めよりまちわたれとおもひなからあなかななるひとの御事をおもひいつるに  
うらみたまひしさまのたまひし事とおもかけにつとそひていさゝかまどろめ  
はゆめにみえ給つゝいとうたであるまでおほゆあめふりやまでひころおほくな  
るころいとゝやまちおほしたえてわりなくおほされければおやのかうこはとこ  
ろせきものにこそとおほすもかたしけなしつきせぬことゝもかきたまひて  
なかめやるそなたの雲もみえぬまでそらさへくるゝころのわひしさふてに  
まかせてかきみたり給へるしもみどころありをかしけなりことにおもくな  
とはあらぬわかき心ちにいとゝかゝるをおもひもまさりぬへけれとはしめより  
ちきり給しさまもさすかにかれは猶いともふかう人からのめてたきなどもよ  
の中をしりにしはしめなれはにやかゝるうき事きゝつけておもひうとみ給なん

よにはいかてかあらんいつしかとおもひまとふおやにもおもはずに心つきなし  
とこそはもてわつらはれめかくこゝろいられたまふ人はたいとあたなる御本  
上とのみきゝしかはかゝるほとこそあらめ又かうなから京にもかくしすゑ給ひ  
なからへてもおほしかすまへむにつけてはかのうへのおほさん事よろつかくれ  
なきよなりければあやしかりしゆふくれのしるへはかりにたにかうたつねいて  
たまふめりましてわかありさまのともかくもあらんをわか心もきすありてかの  
ひとにうとまれたてまつらん猶いみしかるへしとおもひみたるゝおりしもかの  
殿より御つかひありこれかれとみるもうたてあれは猶事おほかりつるをみつゝ  
ふし給へれはしゝう右近みあはせてなをうつりにけりなといはぬやうにていふ  
事はりそかしとのゝ御かたちをたくひおはしまさしとみしかとこの御ありさま  
はいみしかりけりうちみたれたまへるあい行よまらなはかはかりの御おもひ  
をみるゝゑかくてあらしきさいの宮にもまいりてつねにみたてまつりてんと  
いふ右近うしろめたの御こゝろのほとやとのゝ御ありさまにまさり給人はたれ  
かはあらんかたちなどはしらす御こゝろはへけはひなとよ猶この御事はいとみ  
くるしきわさかないかゝならせ給はんとすらんとふたりしてかたらふ心ひとつ  
におもひしよりはそら事もたよりいてきにけりのちの御ふみには思なからひこ  
ろになる事ときゝはそれよりもおとろかい給はんこそおもふさまならめおろ  
かなるにやはなどはしききに

みつまさるおちのさと人いかならんはれぬなかめにかきくらすころつねよ  
りも思やりきこゆる事まさりてなんとしろきしきにたてふみなり御てもこま  
かにおかしけならねとかきさまゆへゝしくみゆみやはいとおほかるをちるさ  
くむすひなし給へるさまゝおかしまつかれを人みぬほとにときこゆけふはき  
こゆましとはちらひてゝならひに

さとのなを我身にしれはやましろのうちのわたりそいとゝすみうき宮のか  
きたまへりしゑを時ゝみてなけれりなからへてあるましき事そとゝさまか  
うさまにおもひなせとほかにたえこもりてやみなんはいとあはれにおほゆへし  
かきくらしはれせぬみねのあまくもにうきてよをふる身をもなさはやまし  
りなはときこえたるをみやはよゝとおほしやるにもものおもひてゐたらんさま  
のおもかけにみえたまふまめ人はのとかにみたまひつゝあはれいかななかむら  
んと思やりていとゝ恋し

つれゝと身をしるあめのおやまねは袖さへいとゝみかさまさりてとある  
をうちもおかすみ給女みやにものかたりなときこえ給てのついでになめしとも

やおぼさんとつゝましなからさすかにとしへぬる人の侍をあやしきところにてきていみしくものおもふなるか心くるしさにちかうよひよせてとおもひ侍むかしよりことやうなるこゝろは侍し身にて世中をすへてれいの人ならてすくしてんとおもひ侍しをかくみたてまつるにつけてひたふるにもすてかたければありと人にもしらせさりし人のうへさへ心くるしうつみへぬへきこゝちしてなんときこえ給へはいかなることに心をくものもしらぬをといらへ給ふ内になどあしさまにきこしめさする人や侍らん世の人のものいひそいとあちきなくけしからす侍やされとそれはさはかりのかすにたに侍ましなときこえたまふつくりたるところにわたしてんとおほしたつにかゝるれうなりけりなとはなやかにいひなす人やあらんなどくるしければいとしのひてさうしはらすへき事などひとしもこそあれこの内記かする人のをやおほくらのたいふなる物むつましくこゝろやすきまゝにのたまひついたりければきゝつきて宮にはかくれなくきこえけりゑしともなとも御すいしんともの中にあるむつましき殿人などをえりてさすかにわさとなんせさせ給ふと申すにいとゝおほしさはきてわか御めのととをきすらうのめにてくたるいへしもつかたにあるをいとしのひたる人しはしかくいたらんとかたらひたまひければいかなる人にかはとおもへとたいしとおほしたるにかたしけなければさらはときこえけりこれをまうけ給てすこし御こゝろのとめ給この月のつこもりかたにくたるへければやかてそのひわたさんとおほしかまふかくなん思ふゆめゝといひやり給つゝおはしまさん事はいとわりなくあるうちにもこゝにもめのとのいとさかしければかたかるへきよしをきこゆ大将とのほう月十日となんさため給へりけるさそふみつあらはとおもはすいとあやしいかにしなすへき身にかあらんとうきたる心地のみすれははゝの御もとにしはしわたりておもひめくらすほとあらんとおほせと少将のめこうむへきほどちかくなりぬとてすほときやうなとひまなくさはけはいしやまにもえいてたつましはゝそこちわたり給へるめのといてきてとのより人ゝのさうそくなどもこまかにおほしやりてなんいかてきよけになに事をもと思給ふれとまゝかこゝろひとつにはあやしくのみそしいて侍らんかしなといひさはくか心地よけなるをみたまふにもきみはけしからぬ事ともいきて人わらへならはたれもゝいかにおもはんあやにくにのたまふ人はたやへたつ山にこもるともかならずたつねてわれも人もいたつらになりぬへし猶心やすくくれなん事をおもへとけふものたまへるをいかにせんと心ちあしくてふし給へりなとかくれいならすいたくあをみやせ給へるとおとろき給ふ日ころあやしくのみなんはかな

きものもきこしめさすなやましけにせさせ給といへはあやしき事かなもの、け  
などにやあらんといかなる御心ちそとおもへといしやまもとまり給にきかしと  
いふもかたわらいたければふしめなりくれて月いとあかしありあけのそらを思  
いつるなみたのいと、とめかたきはいとけしからぬ心かなとおもふは、君むか  
しものかたりなとしてあなたのあまきみよひいて、こひめきみの御ありさま心  
ふかくおはしてさるへき事もおほしいれたりしほとにめにみすくきえいり給  
にし事なとかたるおはしまさましかはみやのうへなどのやうにきこえかよひた  
まひて心ほそかりし御ありさまとものいとこよなき御幸にそ侍らましかしとい  
ふにもわかむすめはこと人かはおもふやうなるすくせのおはしはてはおとらし  
をなと思ひつゝけてよと、もにこの君につけてはものをのみおもひみたれしけ  
しきのすこしうちゆるひてかくてわたり給ぬへかめれはこゝにまいりくる事か  
ならすしもことさらにはえ思たち侍しかゝるたいめんのおりくゝにむかしのこ  
ともこゝろのとかにきこえうけ給はらまほしけれなとかたらふゆゝしきみとの  
みおもふ給へしみにしかはこまやかにみたてまつりきこえせんもなにかはと  
つゝましくすくし侍つるをうちすてゝわたらせ給なはいとこゝろほそくなん侍  
へけれとかゝる御すまゐは心もとなくのみみたてまつるをうれしくも侍へかな  
るかなよにしらすおもくしくおはしますへかめるとのゝ御ありさまにてかく  
たつねきこえさせ給しもおほろけならしときこえおき侍にしうきたる事にやは  
侍けるなといふのちはしらねとたゝいまはかくおほしはなれぬさまにのたまふ  
につけてもたゝ御しるへをなん思いてきこゆる宮のうへのかたしけなくあはれ  
におほしたりしもつゝましき事などのをのつから侍しかは中そらにところせき  
御身なりとおもひなけき侍てといふあまきみうちわらひてこのみやのいとさは  
かしきまていろにおはしますなれはこゝろはせあらんわかき人さふらひにくけ  
になんおほかたはいとめてたき御ありさまなれとさるすちの事にてうへのなめ  
しとおほさんなんわりなきとたいふかむすめのかたり侍しといふにもさりやま  
してときみはきゝふし給へりあなむくつけやみかとの御むすめをもちたてまつ  
り給へる人なれとよそくにてあしくもよくもあらんはいかゝはせんとおほけ  
なく思なし侍よからぬことをひきいてたまへらましかはすへて身にはかなしく  
いみしとおもひきこゆとも又みたてまつらさましなといひかはす事ともにい  
とゝ心もきもゝつふれぬ猶わか身をうしなひてはやつゐにきゝにくき事はいて  
きなんと思つゝくるにこの水のをとのおそろしけにひゝきてゆくをかゝらぬな  
かれもありかし世にゝすあらましきところにしもとし月をすくしたまふをあは

れとおほしぬへきわさになんとは、君したりかほにいひゐたりむかしよりこのかはのやくおそろしきことをいひてさいところわたしもりかむまこのわらはさほさはつしておちいり侍にけるすへていたつらになる人おほかる水に侍りとひとくもいひあえりきみはさてもわか身ゆくゑもしらすなりなはたれもくゝあえなくいみしとしはしこそおもふたまはめなからへてひとわらへにうきこともあらんはいつかそのものおもひのたえんとすると思ひかくるにはさはりところもあるまじうさはやかによろつなさるれとうち返しとかなしおやのよろつにおもひいふありさまをねたるやうにてつくくとおもひみたるなやましけにてやせ給へるをめのにもいひてさるへき御いのりなとせさせ給へまつりはらへなともすへきやうなといふみたらしかはにみそきせまほしけなるをかくもしらてよろつにいひさはく人すくな、めりよくさへからんあたりをたつねていま、いりはと、め給へやむことなき御なからひはさうしみこそなに事もおいらかにおほさめよからぬ中となりぬるあたりはわつらはしきこともありぬへしかくしひそめてさるこ、ろし給へなと思いたらぬ事なくいひをきてかしこにわつらひ侍る人もおほつかなしとてかへるをいとものおもはしくよろつ心ほそければ又あひみてもこそともかくもなれとおもへは心ちのあやしく侍にもみたまつらぬかいとおほつかなくおほえ侍をしはしもまいりこほしくこそとしたふさなん思侍れとかしこもいともさはかしく侍りこの人くもはかなきことなとはしやるましくせはくなくと侍れはなんたけふのこうにうつろひ給ともしのひてはまいりきなんをなをくしき身の程はかゝる御ためこそいとをしく侍れなとうちなきつゝの給との、御文は今日もありなやましときこえたりしをいか、と、ふらひ給へり身つからと思ひ侍をわりなきさはりおほくてなんこのほとにくらしかたさこそ中くくるしくなとあり宮は昨日の御返もなかりしをいかにおほした、よふそかせのなひかんかたもうしろめたくなないと、ほれまさりてなかめ侍などこれはおほくかき給へりあめふりし日きあひたりし御つかひともそけふきたりけるとの、みすいしんかの少輔かいゑにて時くみるをのこなれはまうとはなしにこゝにはたひくまいるそと、ふわたくしにとふらふへき人のもとにまうてくるなりといふわたくしの人にやえんあるふみはとらするけしきあるまうとかなものかくしはなにそといふまことはこのかうのきみの御ふみ女房にたてまつり給といへは事たかひつゝあやしとおもへとこゝにてさためいはむもことやうなるへければおのくまいりぬかとくしきものにそともにあるわらはをこのをのこにさりけなくてめつけよさゑもんのたいふのいゑにやい

るとみせければみやにまいりてしきふのせうになん御文とらせ侍りつといふさ  
まてたつねむものとおとりのけすはおもはすことの心をもふかうしらさりけ  
れはとねりの人にみあらはされにけんそくちをしきやとのにまいりていまいて  
給はんとするほどに御文たてまつらすなをしにて六条の院にきさいの宮のいて  
させ給へるころなれはまいり給なりければことくしくせんなどあまたもな  
し御ふまいらする人にあやしきことの侍りつるみたまひさためむとていまま  
てさふらひつるといふをほのき、給てあゆみいて給まゝになに事そと、ひたま  
ふこのひとのきかんもつゝましと思てかしこまりておりとのもしかみしり給て  
いてたまひぬ宮れいならすなやましけにおはしますとて宮たちもみなまいり給  
へりかんだちめなどおほくまいりつとひてさはかしけれとことなる事もおはし  
まさすかの内記は上くわんなれはをくれてそまいるこの御ふみもたてまつる  
を宮大はんとおはしましてとくちにめしよせてとりたまふを大将おまへ  
のかたよりたちいてたまふそはめにみとをし給てせちにもおほすへかめるふみ  
のけしきかなとおかしさにたちとまり給へりひきあけてみたまふくれなゐのう  
すやうにこまやかにかきたるへしとみゆふみにこゝろいれてとみにもむき給は  
ぬにおとゝもたちてとさまにおはすれはこの君はさうしよりいて給てとおとゝ  
いてたまふとうちしはふきておとろかいたてまつり給ひきかくし給へるにそお  
とゝさしのそき給へるおとろきて御ひもさし給とのもつゐる給てまかて侍ぬへ  
しれいの御しやけのひさしくおこらせ給はさりつるをおそろしきわさなりや山  
のさすたゝいまさうしにつかはさんといそかしけにてたちたまひぬ夜ふけてみ  
ないて給ぬおとゝは宮をさきにたてまつり給てあまたの御ことものかんたちめ  
きみたちをひきつゝけてあなたにわたり給ぬこの殿はおくれていて給すいしん  
けしきはみつるあやしとおほしければこせんなどおりて火ともすほとにすいし  
んめしよすまうしつるはなに事そとゝひ給けさかのうちにいつものこんのかみ  
ときかたの朝臣のもとに侍おとこのむらさきのうすやうにてさくらにつけたる  
ふみをにしのつまとによりて女房にとらせ侍つるみたまひつけてしかくゝとひ  
侍つればことたかへつゝそら事のやうに申侍つるをいかに申すそとてわらはへ  
してみせ侍つれば兵部卿の宮にまいり侍てしきふのせうみちさたの朝臣になん  
その返事はとらせ侍けると申す君あやしとおほしてその返事はいかやうにして  
かいたしつるそれはみ給へすことかたよりいたし侍にける下人の申侍つるはあ  
かきしきしのいときよらなるとなん申侍つときこゆおほしあはするにたかふこ  
となしさまでみせつらんをかとくゝしとおほせと人ちかければくはしくもの給

はすみちすから猶いとおそろしくまなくおはするみやなりやいかなりけんつ  
いてにさる人ありときゝ給けんいかていひより給けんあなかひたるあたりにて  
かうやうのすちのまきはえしもあらしと思けるこそおさなけれさてもしらぬ  
あたりにこそさるすきことをものたまはめむかしよりへたてなくてあやしきま  
てしるへしゐてありきたてまつりし道にしもうしろめたくおほしよるへしやと  
思ふにいとこゝろつきなしたいの御かたの御ことをいみしくおもひつゝとしこ  
ろすくすはわか心をもさこよなかりけりさるはそれはいまはしめてさまあし  
かるへき程にもあらずもとよりのたよりにもよれるをたゝ心のうちのくまあら  
んかわかためもくるしかるへきによりこそおもひはゝかるもおこなるわさなり  
けりこのころかくなやましくし給てれいよりも人しけきまきれにいかてはる

くゝとかきやり給らんおはしやそめにけんいとはるかなるけさうの道なりやあ  
やしくておはしところたつねられ給日もありときこえきかしさやうの事におほ  
しみたれてそこはかとなくなやみ給なるへしむかしをおほしいつるにもえおは  
せさりしほとりなけきいとくゝほしけなりきかしとつくゝとおもふに女のい  
たくもの思たるさまなりしもかたはし心えそめ給てはよろつおほしあはするに  
いとうしありかたきものは人の心にもあるかならうたけにおほとかなりとはみ  
えなからいろめきたるかたはそひたる人そかしこのみやの御くにてはいとよき  
あはひなりと思もゆつりつへくのく心ちし給へとやむことなくおもひそめし人  
ならはこそあらめなをさるものにておきたらんいまはとてみさらんはたいとこ  
ひしかるへしと人わろくいろゝ心のうちにおほすわれすさましくおもひなり  
てすてをきたらはかならずかのみやよひとり給てん人のためのちのいとをしさ  
をもことにたとり給ましさやうにおほす人こそ一品の宮の御かたに人二三人ま  
いらせ給たなれさていてたちたらんをみきかんとをしくなと猶すてかたくけ  
しきみまほしくて御文つかはすれいのすいしんめして御てつから人まにめしよ  
せたりみちさたの朝臣は猶なかのふかいゑにやかよふさん侍と申すうちへは  
つねにやこのありけんおのこはやるらんかすかにてゐたる人なれはみちもおも  
ひかくらんかしとうちうめき給て人にみえてをまかれおこなりとの給かしこま  
りて少輔かつねにこの殿の御事あないしかしこの事とひしもおもひあはすれと  
ものなれてえ申いてす君もけすにくはしうはしらせしとおほせはとはせ給はす  
かしこには御つかひのれいよりもしけきにつけても物おもふ事さまくゝなりた  
ゝかくその給へる

なみこゆるころともしらすゝゑのまつまつらんとのみ思ひけるかな人にわ

らはせ給などあるをいとあやしとおもふにむねふたかりぬ御返事をこゝろえか  
ほにきこえんもいとつゝましくひか事にてあらんもあやしければ御ふみはもと  
のやうにしてところたかへのやうにみえ侍れはなんあやしくなやましくてなに  
事もとかきそへてたてまつれつみ給てさすかにいたくもしたるかなかけてみお  
はぬこゝろはへよとほゝゑまれたまふもにくしとはえおほしはてぬなめりまほ  
ならねとほのめかしたまへるけしきをかしこにはいとゝ思ひそふつるにわか身  
はけしからすあやしうなりぬへきなめりといとゝおもふ所に右近きてとのゝ御  
ふみはなとてかへしたてまつらせ給つるそゆゝしくいみ侍るなる物をひか事  
あるやうにみえつればところたかへとてとのたまふあしとみければ道にてあ  
けてみるなりけりよからすの右近かさまやなみつとはいはてあないとをしみく  
るしき御事ともにこそ侍れ殿はものゝけしき御らんしたるへしといふにふみゝ  
つらんとおもはねはことさまにてかの御けしきみるひとのかたりたるにこそは  
と思ふにたれかさいふそなともえとひ給はすおもてさとかかみてもものたま  
はすこの人ゝのみ思ふらんこともいみしくはつかしわかこゝろもてありそめ  
し事ならねとも心うきすぐせかなと思ひいりてゐたるにしゝうとふたりして右  
近かあねのひたちにて人ふたりみ侍しをほとゝにつけてはかくそかしこれ  
もかれもおとらぬ心さしにて思ひまとひてはへりしほとに女はいまのかたにす  
こし心よせまさりてそ侍りけるそれにねたみてつるにいまのをはころしてしそ  
かしさて我もすみ侍らすなりにきくにゝもいみしきあたらずはものうしなひつ  
またこのあやまちにたるもよきらうとうなれとかゝるあやまちしたるものをい  
かてかはつかはんとてくにのうちをもをいはらはれすへて女のたいゝしきそ  
とてたちのうちにもおい給へらさりしかはあつまの人になりてまゝもいまにこ  
ひなき侍はつみふかくこそみ給ふれゆゝしきついでにやうに侍れと上も下もか  
ゝるすちの事はおほしみたるゝはいとあしきわさなり御いのちまてにはあらす  
とも人の御ほとゝにつけて侍ことなりしぬるにまさるはちなる事もよき人の  
御身には中ゝ侍なりひとかたゝにおほしさためてよ宮も御心さしまさりて  
まめやかにたにきこえさせ給はゝそなたさまにもなひかせ給てものないたくな  
けかせたまひそやせおとろへさせ給もいとやくなしはかりうへの思ひいたつ  
ききこえさせ給ものをまゝかこの御いそきにこゝろをいれてまどひゐて侍につ  
けてもそれよりこなたにときこえさせ給御事こそいと心くるしくいとをしけれ  
といふにいまひとりうたておそろしきまてなきこえさせ給そなに事も御すくせ  
にてこそあらめたゝ御心のうちにすこしおほしなひかたをさるへきにおほ



しならせ給へいてやいとかたしけなくいみしき御けしきなりしかは人のかくおほしいそくめりしかたにも心もよらすしはしかくろへても御おもひのまさらせ給はんによらせ給ねとそおもひ侍とみやをいみしくめてきこゆる心なればひた道にいふいさや右近はともかくてもことなくすぐさせ給へとはつせいし山などに願をなんたて、侍この大将殿の御さうの人くといふものはいみしきふてうものともにてひとるいこのさとにみちて侍なりおほかたこの山しろ山にとの、りやうし給所くの人なんみなこのうとねりといふもの、ゆかりかけつゝ侍なるそれかむこの右近のたいふといふものをもとゝしてよろつの事を、きとおほせられたるなゝりよき人の御中とちはなさけなきことしいてよとおほさすとも物ゝ心えぬる中ひとゝものとのゐ人にてかはりくさふらへはをのかはんにあたりていさゝかなる事あらせしなとあやまちもし侍なんありしよの御ありきはいとこそむくつけく思たまへられしかみやはわりなくつゝませ給とて御ともの人もゐておはしますさすやつれてのみおはしますをさるものゝみつけたてまつりたらんはいといみしくなんといひつゝくるをきみ猶われを宮に心よせてまつりたるとおもひてこの人くといふいとはつかしく心ちにはいつれとも思はすたゝゆめのやうにあきれていみしくいられたまふをはなどかくしもとはかりおもへとたのみきこえてとしころになりぬる人をいまはともてはなれんとおもはぬによりこそかくいみしものもおもひみたるれけによからぬ事もいてきたらん時とつくくとおもひゐたりまろはいかてしなはやとよつかぬこゝろうかりける身かなかくうきことあるためしはけすなとの中にたにもおほくやはあなるとてうつふしく給へはかくなおほしめしそやすらかにおほしなせとてこそきこえさせはへれおほしぬへきことをもさらぬかほにのみのとかにみえさせ給へるをこの御事のゝちいみしくこゝろいられをせさせ給へはいとあやしくなんみたてまつると心しりたるかきりはみなかくおもひみたれさはくにめのとをのかこゝろをやりてものそめいとなみゐたりいまゝいりわらはなどのめやすきをよひとりつゝかゝる人御らんせよあやしくてのみふさせ給るへはものゝけなどのさまたけきこえさせんとするにこそとなけくとのよりはかのありし返事をたにの給はて日ころへぬこのおとしゝうとねりといふものそきたるけにいとあらくしくふつゝかなるさましたるおきなのこゑかれさすかにけしきある女房にもものとり申さんといはせたれば右近しもあひたりとのにめし侍しかはけさまいり侍てたゝいまなんまかりかへり侍つるさうしともおほせられつるついてかくておはしますほとに夜中あか月の事もなにかしらかくてさふらふとおも

ほしてとのゐ人わさときしたてまつらせ給事もなきをこのころきこしめせは女  
房の御もとにしらぬところくの人くかよふやうになんきこしめす事あるた  
いくしきことなりとのゐにさふらふものともはそのあないといきたらんし  
らてはいかてかさふらふへきと、はせ給へるにうけたまはらぬ事なれはなにか  
しは身のやまゐをもく侍てとのゐつかまつる事は月ころをこたりて侍れはあ  
ないもえしり侍らすさるへきおのこともはけたいなくもよをしさふらはせ侍を  
さの事きひしやうの事さふらはんをはいかてかうけたまはらぬやうは侍らんと  
なん申させ侍つるよういしてさふらへひんなきこともあらはおもくかたうせ  
しめ給へきよしなんおほせ事侍つれはいかなるおほせ事にかとおそれ申侍とい  
ふをきくにふくろふのなかんよりもいとものおそろしいらへもやらてさりやき  
こえさせしにたかはぬ事ともをきこしめせもの、けしきは御らんしたるなめり  
御せうそこも侍らぬかなとなけくめのとほのうちき、ていとうれしくおほせ  
られたりぬす人おほかるわたりにとのゐ人もはしめのやうにもあらずみな身の  
かはりそといひつ、あやしきけすをのみまいらすれば夜行をたにえせぬにとよ  
ろこふ君はけにた、いまいとあしくなりぬへき身なめりとおほすに宮よりは  
かにくとのみこけのみたる、わりなさをのたまふいとわつらはしくてなんと  
てもかくてもひとかたくにつけていとうたであることはいきなんわか身ひ  
とつのなくなりなんのみこそめやすからめむかしはけさうする人のありさまの  
いつれともなきに思わつらひてたにこそ身をなくするためしもありけれなから  
へはかならずうき事みえぬへき身のなくならんはなにかおしかるへきおやもし  
はしこそなけきまとひ給はめあまたの子ともあつかひにをのつからわすれくさ  
つみてんとありなからもてそこなひ人わらへなるさまにてさすらへんはまさる  
おもひなるへしなとおもひなるこめきおほとかにたをくとみゆれとけたかう  
世のありさまをもしるかたすくなくておほしたてたる人にしあればすこしをす  
かるへきことをおもひよるなりけんかしむつかしきほくなどやりておとろく  
しくひとたひにもした、めすとうたいの火にやき水になけいれさせなとやう  
くうしなふ心しらぬこたちはものへわたり給へければつれくなる月日をへ  
てはかなくしあつめ給へるてならひなとをやり給なめりとおもふし、うなどそ  
みつくるときはなとかくはせさせ給あはれなる御中にこゝろと、めてかきかは  
し給へるふみは人にこそみせさせ給はさらめもの、そこにおかせ給て御覽する  
なん程ほどにつけてはいとあはれに侍さはかりめてたき御かみつかひかたしけ  
なき御ことのはをつくさせ給へるをかくのみやらせたまふなさけなきこと、い

ふなにかむつかしくなかゝるましき身にこそあめれおちとゝまりて人の御ため  
もいとをしからんさかしらにこれをとりをきけるよともりきゝ給はんこそはつ  
かしけれなどのたまふ心ほそきことをもおもひもてゆくにはまたえおもひたつ  
ましきわさなりけりおやをゝきてなくなる人はいとつみふかゝなるものをなと  
さすかにほのきゝたることをも思ふ廿日かあまりにもなりぬかのいゑあるし廿  
八日にくたるへし宮はその夜かならすむかへんしも人などによくけしきみゆま  
しきこゝろつかひし給へこなたさまよりはゆめにもきこえあるまじうたかひた  
まふなゝとのたまふさであるましきさまにておはしたらんにいまひとたひもの  
をもえきこえすおほつかなくて返したてまつらん事よ又時のまにてもいかてか  
こゝにはよせたてまつらんとするかひなくうらみてかへり給はんさまなどを思  
ひやるにれいのおもかけはゝなれすたえすかなしくてこの御ふみをかほにをし  
あてゝしはしはつゝめともいといみしくなき給右近あかきみかゝる御けしきつ  
ゐに人みたてまつりつへしやうゝあやしなと思ふ人侍へかめりかうかゝつら  
ひおもほさてさるへきさまにきこえさせてよ右近侍らはおほけなき事もたはか  
りいたし侍らはかはかりちるさき御身ひとつはそらよりいてたてまつらせ給な  
んといふとはかりためらひてかくのみいふこそ心うけれさもありぬへき事と思  
ひかけはこそあらめあるましきことゝみな思ひとるにわりなくかくのみたのみ  
たるやうにのたまへはいかなることをして給はんとするにかなとおもふにつ  
けて身のいと心うきなりとて返事もきこえたまはすなりぬ宮かくのみ猶うけひ  
くけしきもなくて返事さへたえゝになるはかの人のあるへきさまにいひした  
ゝめてすこし心やすかるへきかたに思きたまりぬるなめりことほりとおほす物  
からいとくちをしくなたくさりとて我をはあはれと思たりしものをあひみぬと  
たえに人ゝゝのいひしらるかたによるならむかしなとかめ給にゆくかたし  
らすむなしきそらにみちぬる心ちし給へはれいのいみしくおほしたちてをはし  
ましぬあしかきのかたをみるにれいならすあれはたそといふこゑゝいさとけ  
なりたちのきて心しりのをのこをいれたればそれをさへとふさきゝのけはひ  
にもにすわつらはしくて京よりとみの御ふみあるなりといふ右近かすきのなを  
よひてあひたりいとわつらはしくてゝおほゆさらにこよひはふようなりいみ  
しくかたしけなき事といはせたり宮なとかくもてはなるらんとおほすにわりな  
くてまつ時かたいりてしゝうにあひてさるへきさまにたはかれとてつかはすか  
とゝゝしき人にてとかくいひかまへてたつねあひたりいかなるにかあらんかの  
殿のゝたまはする事ありとてとのゐにあるものともさかしかりたちたるころ

にていとわりなきなりおまへにもものをのみいみしくおほしためるはかゝる御ことのかたしけなきをおほしみたるゝにこそはとこゝろくるしくなんみたてまつるさらにこよひは人けしきみ侍なは中くゝにいとあしかりなんやかてさも御こゝろつかひせさせたまひつへからん夜こゝにも人しれすおもひかまへてなきこえさすへかめるめのとのいさとき事などもかたるたいふおはしますみちのおほろけならすあなかななる御けしきにあえなくきこえさせんなむたいくゝしきさらはいさたまへともにくはしくきこえさせ給へといさなふいとわりなからんといひしろふ程に夜もいたくふけゆく宮は御むまにてすこしとほくたちたまへるにさとたひるこゑしたるいぬともものいてきてのゝしるもいとおそろしく人すくなにいとあやしき御ありきなれはすゝろならんものゝはしりきたらむもいかさまにとさふらふかきり心をそまとはしける猶とくゝまいりなんといひさはかしてこのしゝうをゐてまいるかみわきよりかひこしてやうたいゝとをかしき人なりむまにのせんとすれとさらにきかねはきぬのすそをとりてたちそひてゆくわかくつをはかせて身つからはともなる人のあやしきものをはきたりまゐりてかくなんときこゆれはかたらひたまふへきやうたになければやまかつのかきねのおとろむくらのかけにあふりといふものをしきておろしたてまつるわか御心ちにもあやしきありさまかなかゝる道にそこなはれてはかゝしくはえあるましき身なめりとおほしつゝくるになき給ことかきりなしこゝろよはき人はましていといみしくかなしとみたてまつるいみしきあたをおにゝつくりたりともをろかにみすつましき人の御ありさまなりためらひ給てたゝひと事もえきこえさすましきかいかねはいまさらかゝるそなを人くゝのいひなしたるやうあるへしとのたまふありさまくはしくきこえてやかてさおほしめさん日のかねてはちるましきさまにたはからせたまへかくかたしけなき事ともをみたてまつり侍れは身をすてゝも思ふたまへたはかり侍らるときこゆわれも人めをいみしくおほせはひとかたにうらみ給はんやうもなし夜はいたくふけゆくにこのものとかめするいぬのこゑたえす人くゝをひさけなとするにゆみひきならしあやしきのことものこゑともして火あやふしなといふもいとこゝろあはたゝしければかへり給ほといへはさらなり

いつくにか身をはすてんとしら雲のかゝらぬ山もなくくゝそゆくさらははやとてこの人のかへし給ふ御けしきなまめかしくあはれに夜ふかき露にしめりたる御かのかうはしきなとたとへんかたなしなくくゝそかへりきたる右近いひきりつるよいひたるに君はいよくゝおもひみたるゝ事おほくてふし給へるに

いりきてありつるさまかたるいらへもせねとまくらのやうくうきぬるをかつ  
はいかにみるらんとつゝましつとめてもあやしからんまみをおもへはむこにふ  
したりものはかなけにおひなとして経よむをやにさきたちなんつみうしなひた  
まへとのみおもふありし糸をとりいてゝみてかき給してつきかほのにほひなど  
のむかひきこえたらんやうにおほゆれはよへひとことをたにきこえすなりにし  
は猶いまひとへまさりていみしと思ふかのこゝろのとななるさまにてみんとゆ  
くすゑとをかるへきことをたまひわたる人もいかゝおほさんといとをしうき  
さまにいひなす人もあらんこそおもひやりはつかしけれとこゝろあさくけしか  
らす人わらへならんをきかれたてまつらんよりはなと思つゝけて

なけきわひ身をはすつともなきかけにうき名なカさんことをこそおもへお

やもいとこひしくれいは事におもひいてぬはらからのみにくやかなるもこひし  
宮のうへをおもひいてきこゆるにもすへていまひとたひゆかしき人おほかり人  
はみなをのくものそめいそきなにやかやといへとみゝにもいらす夜となれは  
人にみつけれすいてゝゆくへきかたをおもひまうけつゝねられぬまゝに心ち  
もあしくみなたかひにたりあけたてはかはのかたをみやりつゝひつしのあゆみ  
よりもほとなき心地す宮はいみしき事ともをたまへりいまさらに人やみんと  
おもへはこの御返事をたに思ふまゝにかゝす

からをたにうきよの中にとゝめすはいつこをはかと君もうらみんとのみか  
きていたしつかの殿にもいまはけしきみせたてまつらまほしけれと所くにか  
きをきてはなれぬ御中なれはつるにきゝあはせ給はん事いとうかるへしすへて  
いかになりにつれんとたれにもおほつかなくてやみなんと思ひかへす京よりはゝ  
の御ふもてきたりぬぬる夜の夢にいとさはかしくてみえ給つればす経所く  
せさせなとし侍をやかてそのゆめのゝちねられさりつるけにやたゝいまひるね  
して侍ゆめに人のいむといふ事なんみえ給へはおとろきながらたてまつるよ  
くつゝしませたまへ人はなれたる御すまゐにてときくたちよらせ給人の御ゆ  
かりもいとをそろしくなやましけにものせさせ給ふおりしも夢のかゝるをよろ  
つになん思給ふるまいりこまほしきを少将のかたの猶いと心もとなけにものゝ  
けたちてなやみ侍れはかた時もたちさる事といみしくはれ侍りてなんそのち  
かきてらにもみす経させ給へとてそのれうのものふみなとかきそへてもてき  
たりかきりと思ふいのちのほとをしらてかくいひつゝけ給へるもいとかなしと  
おもふてらへ人やりたるほと返事かくいはまほしきことおほかれとつつましく  
てたゝ

のちにまたあひんことを、もはなんこの世の夢にこゝろまとはてす経の

かねの風につけてきこえるをつくくとき、ふし給へり

かねのをとのたゆるひゝきにねをそへてわかよつきぬときみにつたへよく

わんすもてきたるにかきつけてこよひはえかへるましといへは物のえたにゆひ  
つけておきつめのとあやしくこゝろはしりのするかなゆめもさはかしのたま  
はせたりつとのゐ人よくさふらへといはするをくるとき、ふし給へりものき  
こしめさぬいとあやし御ゆつけなどよろつにいふをさかしかるめれとみにく、  
おひなりて我なくはいつくにかあらんとおもひやり給もいとあはれなり世中に  
ゑありはつましきさまをほのめかしていはんなどおほすにはまつおとろかされ  
てさきたつなみたをつゝみ給てもものいはれす右近ほとちかくふすとてかくの  
みものをおもほせはものおもふ人のたましゐはあくかるなるものなれはゆめも  
さはかしきならんかしいつかたとおほしさまりていかにもくおはしきさん  
なんとうちなけくなへたるきぬをかほにをしあてゝふしたまへりとなん